

1 教育課程について — 授業力の向上

計
画
①授業時間数の確保
②主体的に学ぶ授業の研究
③全ての学年に道徳副教材を導入し、年間計画に基づき指導する。
④配置された加配教員(数2、英1)を最大限活用して、数学科と英語科の習熟度別指導の実施率を50%に上げ、学力の向上に努める。
⑤支援教育、通常の学級に在籍する支援の必要な生徒への支援、通級指導の充実を図る。
⑥目標に準拠した評価のあり方を研究し、生徒の意欲を高める授業へと結びつける。

取
組
①2学期末で授業実施時間数は年間標準時数の1年生が75%、2年生が75%、3年生が74%である。
②今年度は、「生徒が主体的に学ぶ授業の創造」を研究主題として、豊能町教育委員会から研究指定をいただき、研究活動に取り組んできた。8月には兵庫教育大学から吉水教授を招いて全体研修を行い、10月(国語科)11月(英語科・数学科)には公開研究授業を行った。また、11月には町教委の指導主事を招いて全体研修会を行い、それらを踏まえて全教科がテーマに沿った授業の指導案を作成し、校内での交流を図った。
③計画通りに副教材を活用して道徳の時間に授業を行った。11月4日には保護者向けに道徳の時間の公開及び参観授業を行った。
④数学と英語では加配教員を活用して習熟度別指導を取り入れた。その実施率は数学では約7割、英語では約4割の値が見込まれる。
⑤職員会議にて支援学級在籍の生徒についての情報を共有した。また、来年度入学・入級予定の6年生児童の様子について事前に校内にて情報共有を行い、全職員が分かれて小学校へ授業参観に行くとともに、共有した情報を元に体験授業会を行った。
⑥職員会議にて目標に準拠した評価のあり方を検討し、共通認識を持った。また、高校受験時に必要な調査書評定についても共通認識を持った。

評
価
○生徒の評価 ※(H26年度、H27年度、**H28年度**)の肯定的評価の割合
「好きな授業がある」(88.2%)「授業をわかりやすくしようとしている」(68.5% 79.4% **89.5%**)「少人数授業は分かりやすい」(78.4% 85.3% **90.1%**)「朝の読書は落ち着いて読書のできる時間」(86.2% 86.9% **84.5%**)であり、年次的に上昇しているものもあり、概ね良好な結果である。
○保護者の評価
「支援教育の充実に取り組んでいる」(80.6% 83.2% **83.7%**)「少人数授業、きめ細やかな指導、分かりやすい授業の工夫・研究」(70.0% 77.8% **83.1%**)「放課後まなびや教室・家庭学習計画表・補習などを通じて自学自習力の向上に努めている」(76.1% 83.1% **80.7%**)「読書活動に力を入れている」(80.7% 84.8% **82.8%**)であり、生徒からの評価と同様、年次的上昇の項目もあり、概ね良好な結果である。
○総括的
・朝の読書の時間には引き続き取り組み、豊能町教育委員会独自の取組とも連携し、家庭での読書も含め、啓発を行っていく必要がある。
・新しい学習指導要領を念頭に置き、校内の研究会はもちろん、外部で行われる研修会にも教員の参加をすすめ、教員の教科指導力の向上に力を入れていく必要がある。指導力向上については一定の成果は認められるものの、まだまだ目標には届いていない。
・今年度、校内の支援教育に対する考え方を整理し、組織的に生徒支援をすすめられるよう、校内体制の整備を行ったが、まだ不十分である。通常の学級に在籍する支援の必要な生徒への指導も含め、さらなる深まりが必要である。

学校協議会委員評価

・「先生は、授業をわかりやすくしようとしている」という質問に対する生徒の回答は、右図のように肯定的評価が飛躍的に伸びていることは大いに評価できる。全教科がテーマに沿った授業案を作成するなど学校総体として授業改善に取り組んでいることが、日々の授業に反映されてきた結果であると考えられる。

・「学校は、少人数授業やきめ細やかな指導など、わかりやすい授業の工夫・研究に努めている」という質問に対する保護者の回答も、肯定的な評価が3年連続大きく伸びてきている。小規模な学校になりつつある吉川中学校にとって、少人数指導（習熟度別授業）や授業外の放課後学習などが個々のニーズに応えることができる大きな取り組みになっていると考えられる。さらなる取り組みの進展を期待する。

・何らかの支援を必要とする生徒の割合が、増加してきている中で、支援教育の広がりが校内全体に少しずつ広がってきつつあるのを感じる。また、その取組についての保護者評価も3年連続で肯定的評価が増加していることは、高く評価できる。

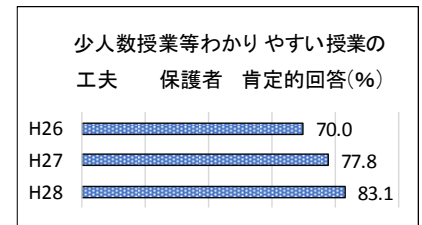
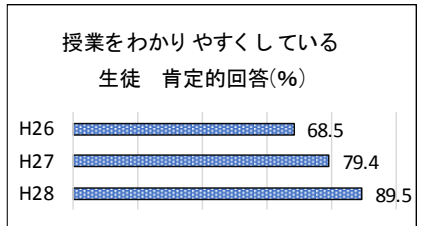
・都会の学校と違って、他校との交流や刺激が少ないので、学外の作品展、コンクール等へ参加も積極的に行ってほしい。また、現在行っているものがあれば、もっと見えやすい形で公表してほしい。

・「主体的に学ぶ授業」とは何を目標にして、どのような手法をとるのか？それによって、生徒の学習の流れはどのように変わったのか？それは将来的に高等教育において、どんな効果が見込まれるのか？などをわかりやすく説明いただきたい。

・授業への取り組みに対しての評価は年々向上しているが、朝読の評価が少し下降しているので新たな工夫が必要ではないか。

・加配教員による習熟度別授業は、非常に効果があると思うので今後も積極的な活用を期待する。

・「生徒の評価」がおおむね8割以上ということで、たいへん喜ばしいことと思われる。特に「少人数授業は分かりやすい」が90%を越えているということは、「クラス単位での学習」という枠組みの中でも、やはり工夫によって少人数に分けて授業をした方が効果的であることを如実に表しているものであり、今後も効果的かつ必要な取り組みであると思われる。



2 生徒指導について — よりそう指導をとおして集団づくりを

- 計
画
- ①生徒の生活の原点を見据えた指導を行う。「教員にとって困る生徒はいないが、自身が困っている生徒はいる。」をモットーに。
 - ②いじめを許さない集団づくりをめざす。
 - ③学校での生活環境を整える。
 - ④不登校0、いじめ早期解決をめざす。
 - ⑤明確な目標を設定し、クラブ指導を行う。
 - ⑥生徒会等生徒代表者と学校協議会やPTA役員との意見交流を行い、課題解決に向けて学校総体として取り組む仕組みづくりを行う。
 - ⑦生徒のコミュニケーション力や社会性を高める機会を設ける。

- 取
組
- ①毎朝の出欠状況を学年として把握する為に、生徒の出席確認を徹底した。欠席が連続した生徒には家庭訪問で状況を把握し、適切な支援を行った。不登校傾向のある生徒については、個別の状況に応じた指導を行ってきた。それぞれの生徒の状況については毎週1回、各学年の担当者と管理職、こども支援コーディネーターで情報を共有する場を持ち、取り組みの方向性を整理してきた。また、個別の生徒に関するケース会議を必要に応じて随時開催し、現状と指導の方向性を共通確認してきた。
 - ②道徳、総合、学活などを通じて体験的取り組みを重視し、自尊感情が高まるよう行事への取り組みを指導した。
 - ③全員清掃を基本的に毎日実施。学期に1回の大掃除。PTAの協力を得ながらクリーン作戦の実施。社会福祉協議会のボランティアや教職員による草刈り。地域ボランティアによる中庭整備。PTA学級委員による施設点検、教職員による全施設点検を7月と11月に実施。
 - ④生徒間のトラブルはすぐに学年団で対応したうえで保護者に状況を説明し、解決を図ってきた。不登校状態にある生徒宅へはスクールカウンセラーや相談員を派遣したり、担任による家庭訪問を行ってきた。学年を超えた校内の全生徒の様子をこども支援コーディネーターが把握し、必要に応じて学年・担任への支援を行った。また、教室に入りにくい状況になった生徒が学習したり、相談したりできるようにカウンセリングルームをフル活用した。
 - ⑤年度当初に2・3年生へクラブカードを返却し、保護者も含めて入部の意思確認を行ったうえで活動をスタートした。スタートに当たってはキャプテン会議を経て各クラブミーティングを行い、活動目標と方針を明確にした。
 - ⑥10月に前期生徒会役員と学校協議会委員及びPTA役員との懇談会を持ち、生徒が自分の考えを発表し、そのことをもとに大人と生徒が意見交換する場をもった。また、その際に、学校生活上で不便を感じている設備について、生徒から聞き取りを行った。
 - ⑦各種学校行事を始め、3年生では修学旅行、高校オープンキャンパスへの参加、保育体験、2年生では宿泊学習、職場体験、1年生では人権校外学習、福祉体験、職場聞き取り学習を実施。

- 評
価
- 生徒の評価 ※(H26年度、H27年度、**H28年度**)の肯定的評価の割合
 「学校へ行くのが楽しい」(79.9% 86.7% **86.4%**) 「基本的な生活習慣の確立に力を入れている」(83.4% 89.1% **89.4%**) 「あいさつはできていると思う」(74.5% 85.0% **86.7%**) 「命の大切さ、社会のルールの大切さ、人権の大切さについて学んだり考えたりするように指導している」(81.3% 88.4% **86.4%**) 「いじめや悩みや困っていることに対応しようとしている」(73.4% 80.4% **82.5%**) 「将来の夢や目標を持っている」(69.6% 66.4% **71.7%**) 「人の役に立てる人間になりたい」(87.4% 89.0% **91.8%**) 「先生は将来の夢や目標について考える機会をつくっている」(72.1% 81.3% **77.0%**) であり、概ね良好な結果である。
- 保護者の評価
 「学校へ行くのが楽しいと言っている」(82.5% 83.8% **86.7%**) 「基本的な生活習慣の確立に力を入れている」(83.3% 86.8% **89.4%**) 「命、社会のルール、人権の大切さについての指導を行っている」(82.7% 79.0% **90.0%**) 「いじめなど困っていることに耳を傾け対応している」(67.1% 74.5% **76.9%**) であり「いじめ…」についても年次的な上昇が見られること、その他8割～9割の肯定的意見であり、概ね良好な結果である。

○総括的

・「学校へ行くのが楽しい」と回答する生徒の割合は3年前より増加しているが、そうとは言えない生徒の割合が10%以上あることは大きな課題である。

「いじめや悩み…」の項目でも年次的に上昇が見られることは評価に値するが、全生徒が学校へ行くのが楽しいと思えるようになるためには、対応をさらに工夫し、成果に結び付けていかなければならない。

・また、「生きる力」を育成するには、基本的な生活習慣の確立とともに、行動を起こす原動力としての意欲や興味、目標が必要である。そのためには生徒の悩みや困ったことの相談を受け、その克服を助け、生徒の生きる展望と意欲の育成へと生徒指導がつながるよう、さらなる取り組みを創造していかなければならない。

学校協議会委員評価

・個々の生徒や家庭の事情に丁寧に向き合っている。また、将来役に立つ、社会性や生きる力の育成にも力をいれている。

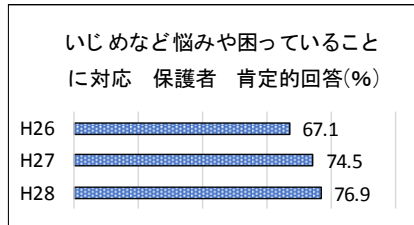
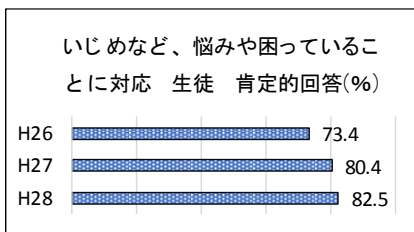
・いじめに対する先生や学校の取り組みに対して、肯定的評価が生徒・保護者とも右のグラフのように3年連続伸びてきていることは、評価できる。

・欠席生徒へのきめ細かい支援、生徒間トラブルへの間髪を入れない対応等で、大きな成果を上げているようで、「不登校0をめざす」取り組みを評価したい。小中連携、外部機関との連携、福祉機関との連携等一層の努力をお願いしたい。

・課題としては、副主題であげた「よりそう指導をとおして集団づくりを」に対する具体的な取り組みが見えてこないことが挙げられる。②の「いじめを許さない集団づくり」に対して、「行事への取り組み」を挙げておられるが、保護者へのアンケート自由記述では、行事の縮小に否定的な意見が複数あった。どういう集団作りをどの時間にしようとしているのかをもっと明らかにすることによって、生徒や教職員の取り組みも変わってくるのではないかと。

・「生徒が学校へ行くのが楽しい」となるような学校づくりのためには、生徒と教師の信頼関係をより緊密にして、何でも相談できるような雰囲気づくりが必要なのではないかと。単に厳しく指導するより、柔軟性のある対応も必要なのではないかと。

・このご時世で生徒たちも保護者も「学校に行くのが楽しい」「楽しいと言っている」という評価が高いことは本当に貴重なことで、吉中の素晴らしい取り組みを見て取れる。上述の「全生徒が学校へ行くのが楽しいと思えるようになる」というのは少々現実的ではない。小学校と違い、自我の確立に重要な時期、画一的に皆が「楽しい」と言うのも、全体主義的で何となく不自然な感じがする。9割で十分なのではないかと・・・。



3 学校の危機管理について - 報告・連絡・相談・点検の徹底

計 画	<p>①コンプライアンスの徹底を図る</p> <p>②学校の事故防止のため、日常の安全点検、報告・連絡・相談を行う。学校協議会や関係機関との連携を密にする。</p> <p>③学校情報を透明化し、積極的に発信する。</p> <p>④学校文書、公金、諸経費等の管理は教育委員会やPTAの監査を受ける。</p> <p>⑤生徒・保護者・地域への学校ルールへの指導と統一と徹底を図る。</p>
取 組	<p>①障害者差別解消法の施行に伴う全体研修会、体罰根絶について全体研修会、コンプライアンス全体研修会をもった。また、日常的に公金の出納時には、必ず管理職が点検を行った。</p> <p>②学校や地域等で発生した事象（いじめ等生徒指導上の諸問題、不審者対応、警報発令等自然災害等）は町教委や豊能警察・消防署に連絡・報告・相談を行い、適切・適時な対応を行った。 また、教職員の職務遂行に当たっては教職公務員としての自覚を高めるための指導を適時行ってきた。学期に1度の避難訓練を実施。</p> <p>③「学校だより」「学年だより」「学級だより」「進路通信」「保健だより」「図書だより」などを定期的、また不定期にて発行するとともに、「学校だより」「進路通信」「保健だより」「全国学力学習状況調査分析結果」「(改定)いじめ防止基本方針」はホームページに掲載した。</p> <p>④学校文書、公金、諸経費について、10月に町教育委員会に監査を受け、学校文書の一部については2月に町監査委員から監査を受ける。また、保護者からの徴収金については、3月にPTA会長から監査を受ける予定である。</p> <p>⑤生徒指導関係のルールや長期休業中の生活のあり方などを生徒指導だよりで啓発した。防犯教室、薬物乱用防止教室、ICT講演会、避難訓練を実施した。</p>
評 価	<p>○生徒の評価 ※(H26年度、H27年度、H28年度)の肯定的評価の割合 「学校は『学校だより』等通じて情報を発信している」(83.4% 90.0% 85.5%)「『学校だより』等を読んでいる」(53.1% 55.0% 55.0%)「給食は適切に実施されている」(14.0% 21.5% 25.7%)であった。昨年度の結果から、「学校だより」の内容を保護者向けのものへとその傾向を変えた。その結果に対する生徒からの反応と考えられる。</p> <p>○保護者の評価 「学校は教育方針や活動を分かりやすく伝えている」(79.3% 81.0% 83.9%)「学校は情報発信や連絡・情報提供を行っている」(87.2% 89.5% 91.8%)「子どもを通じて情報は保護者に届いている」(76.1% 76.9% 78.3%)「給食は適切に実施されている」(16.4% 17.4% 44.1%)「施設・設備の安全管理を適切に行っている」(--- 81.3% 78.2%)「生徒の健康管理に努めようとしている」(--- 81.7% 87.3%)であった。学校から保護者への情報発信・提供は一定満足のできる結果となっている。施設・設備の安全管理については、保護者も多く参加する行事の最中に「雨漏り」が起り、保護者に心配をかけたことが数字に表れていると考える。</p> <p>○総括的 給食に対する満足度の低さは大きな課題である。抜本的なことを学校では取り組めないが、今年度は食育に力を入れたり、保護者の試食会を増やしたり、生徒に評判の悪かった汁物を基本的には提供せずその他のもの(ふりかけやデザート)に代え、汁物をカレーだけにしたこと、豊能町独自のアレルギー対応メニューを提供できるようにしたこと、等々、地道にできることに取り組んできた。できることは限られているが、さらに工夫し給食が適切な食育の場となるよう努力を続けたい。併せて、生徒や保護者の給食制度への意見は町教育委員会へ伝えていく。</p>

<p>学校協議会委員評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・危機管理については十分評価できる。 ・ホームページを通じて情報を広く公表することは、非常に大切である。忙しいとは思いますが、古い情報となっているページは削除するなど、情報管理もお願いしたい。 ・生徒の『「学校だより等」を読んでいる』という質問に対する肯定的評価が55%と非常に低いのは、よくわからない。質問の仕方にも問題があるのではないかと。個別にどういう思いで回答したのかを聞いて原因を解明してみたい。 ・「給食は適切に実施されている」という質問に対しては、保護者の肯定的評価がかなり増えてきた。学校と教育委員会が改善に向けて努力していることがうかがえる。しかし、根本的な問題はまだまだ解決されていない。教育委員会に伝えるだけでなく、しっかりとつながりを持ち、粘り強く改善に向けた努力を重ねていただきたい。 ・給食への生徒の評価は少し上がっているが、豊能町としての抜本的な対応をしていかねばならない。 ・給食に関しては、課題が大きいと思うが、やはりそこは「やれること」と「やれないこと」というものが当然あって、どこかで「妥協点」を見出すことも大事である。「好み」もあるけれども、どんなものであれ、「提供されたものは（ある程度・・・）感謝して受け取る」という謙虚な姿勢を学ぶのも、社会に出る手前にいる時期には重要かと考える。 ・危機管理と情報発信とは相対するところもあるが、行事予定など地域とつながりながら生徒を育てていく必要があることから、さらなる情報の提供に期待する。 ・施設・設備の管理は、学校生活において非常に重要なことなので、雨漏り等は早急に改善されたい。
------------------	---

4 本校の将来像と信頼される学校づくりについて - 生徒の意欲と自主的行動力を育てる	
計 画	<p>①授業参観と授業公開週間及び学年懇談会を実施する。</p> <p>②学校教育活動に地域のボランティアとPTAの支援を積極的に活用して、学校の諸課題（学力・学習の充実、クラブの支援、将来像への指針、地域社会への関わり）の解決を図る。</p> <p>③小規模化に伴う学校運営のあり方を見直す。</p> <p>④小中一貫教育推進を図る。</p> <p>⑤学校協議会では、学校が保護者や地域住民等の信頼にこたえ、家庭や地域と連携・協力して、一体となって生徒たちの健やかな成長を図るため、様々な視点の幅広い意見を求めるとともに、学校関係者評価に取り組んでいただく。</p>
取 組	<p>①4月16日、6月3日に授業参観、10月31日～11月4日に公開授業週間を設けた。学年懇談会を各学年1回実施した。（3年生は6月5日に修学旅行報告、2年生は11月6日に職場体験学習の報告、1年生は11月6日に人権校外学習の報告。）</p> <p>②地域の人材を活用し、放課後まなびや学習を実施し、西公民館で実施されているまなび舎への参加も推奨した。また、3年生では高校教員による出前授業を実施した。クラブ活動では、野球部、ソフトボール部、卓球部での外部コーチによる指導を実施した。将来への指針として、1年生では職場の方からの聞き取り学習、2年生では職場体験、3年生では保育体験を実施した。社会への関わりを体験させるために「ふれあいのつどい」開催の事務局を主管した。</p> <p>③今年度をもって女子バレーボールを廃部とした。一方で、中体連大会へ剣道、柔道、水泳、体操競技での個人参加を実施した。校務分掌の見直しの議論を開始した。</p> <p>④小中一貫教育の推進については、町教委主催の小中一貫教育推進会議へ担当者が毎回参加し、12月には中間発表へ全職員が参加し、専科加配教員が校区の2小学校へ年間を通じて授業実施した。また、子ども支援コーディネーターが随時小学校教員とケース会議へ出席し、情報交換など連携を図った。</p> <p>⑤年間3回の学校協議会を開催し、学校情報を伝え、アドバイスを受けた。また、10月には学校協議会委員とPTA役員による生徒会役員との懇談会を実施し、直接生徒会役員へアドバイスをいただくことができた。</p>
評 価	<p>○生徒の評価 ※（H26年度、H27年度、H28年度）の肯定的評価の割合 「学校行事はみんなが楽しく、そしてがんばって取り組めるようになっていく」（78.6%79.1%85.2%）であり、年次的にも上昇傾向にあり、生徒が行事に前向きに取り組んだ様子が伺える。</p> <p>○保護者の評価 「学校は合唱発表会、体育大会などの学校・学年行事等に生徒が前向きに取り組むよう指導している。」（91.0%90.4%90.1%）「家庭では子どもとふれあう時間をつくらうとしている」（---94.6%97.7%）「家庭では進路について相談することを大切にしている。」（---92.2%94.1%）「地域人材の活用に努めている」（67.4%77.9%89.0%）であった。 学校行事については、継続して高いポイントが出ており、保護者の学校行事への期待の高さと評価が伺える。地域人材の活用についても今年度は特に高い評価をいただいたことで、活用の定着と効果が上がってきているものと考えられる。家庭におけるかかわりの設問では、昨年にも増して高いポイントであることから、保護者の家庭での教育力の高さが伺える。</p> <p>○総括的 生徒が意欲を持って主体的に取り組む、成果を実感できること、かつ、集団づくりがすすむことを考え、学校行事の取り組みをつくってきた。生徒が学校行事を通じて周囲の生徒と切磋琢磨し、コミュニケーション力を高め、自己の成長をはかっていることがみられ、この取り組みは評価できる。また、その学校での取り組みと、子どもの成長を保護者が実感したときに学校への期待と信頼をさらに高めていただけるものと考え、さらなる取り組みを進めたい。</p>

学校協議会委員評価

- ・「地域人材の活用」についてのアンケート調査結果（肯定的評価）が、この3年間で右のグラフのように著しく伸びている。大いに評価できる。
- ・吉川中学校は、1学年10クラス以上あった大規模校から、4,5クラスの中規模校、さらには小規模校へと変化している。地域とともに、生徒の生きる力・自ら学ぶ力の育成に一人ひとりを大切に考えて、さらなる改革に取り組んでいただきたい。
- ・地域人材の活用や、「ふれあいのつどい」などで地域との交流も果たしており、地域の中の学校の存在が見える。さらに、地域社会との交流として合唱発表会などを地域に開放してはどうか？地域に根差した小規模校としての在り方を研究していかねばならない。
- ・小中一貫教育では、小学校から中学校への情報のスムーズな連絡、教科上での刺激に満ちた交流も見られ、効果をあげている。
- ・校区3小学校との連携を強化して、小中一貫教育の更なる発展を望む。
- ・2番館の閉店により、制服、文具などの学用品が手軽に購入できない状況を改善するために、校内に購買部を設ける、自治会や近隣店舗に協力を仰ぐ等、仕事に忙しい保護者にも利用しやすいシステムを考えてほしい。
- ・体育大会で3年生の組体操、ダンスがなくなったが、思い出に残るような目玉となる演目、3年生にしかできない演目を体験させてほしい。
- ・体育大会や合唱コンクールでは、3年生が中学校生活の良い思い出となるようなさらなる工夫が必要だと思う。
- ・「学校だより」等を各自治会で回覧していただき、住民に親しみと興味を持ってもらえるようにしてはどうか。（町内のすべての小学校及び東能勢中学校は、各自治会にて学校だよりを回覧している）
- ・計画の欄に、「②学校教育活動に地域のボランティアとPTAの支援を積極的に活用して・・・」とある割には、実際に支援をさせていただいている、と実感する地域ボランティア、PTAの方は少ないように思う。もっともっといろいろな可能性があると思われる。さらにいろんな角度から、地域人材の活用を考えていくべきなのではないか。

